

令和4年度第2回医ケアワーキング会議要旨（兼）報告書

1 開催日時 令和5年2月21日（火）13時00分～14時30分

2 開催場所 オンライン（ZOOM）

3 出席委員 福原、村尾、井川、小田、濱本、依田、末光、（事務局）田中、浜名、岡野

4 議事

- (1) 災害時の支援策の検討の今後の進め方について【資料1】
- (2) 災害時対応ガイドブック～平常時の備え編～について【資料2】
- (3) アンケート調査（災害対策編）の内容及び調査方法について【資料3】

5 会議要旨

(1) 災害時の支援策の検討の今後の進め方について

ア 説明

- ・田中が、資料1に基づき説明。

イ 質疑・意見交換

- ・なし

(2) 災害時対応ガイドブック～平常時の備え編～について

ア 説明

- ・田中が、事前の意見照会により、関係課及び協議会委員から出た意見を修正した点（意見集計のとおり）、他市において既に作成されたガイドブック等をベースに広島市版とした点、今後専門家を招くなどにより更新していく点について説明。

イ 質疑・意見交換

[委員]

- ・災害は、自宅だけでなく、日中の居場所（学校や障害事業所等）でも起こりうる。保護者が、このガイドブックを見て、安心されては困るので、学校や通所系サービスへ移動する時をはじめとした自宅以外編も必要ではないか。

[事務局]

- ・今回のガイドブックは、自宅での備えに特化したものである。自宅以外での防災対策については、アンケート調査により日中の居場所を確認した上で、学校、保育園、デイサービス事業所等でどのように災害対策をとらているか確認していきたい。

[委員]

- ・今回のガイドブックを在宅編として配布することに意義はあるため、平常時の備え「在宅」編とすべきである。

[委員]

- ・読みものとしてはありだと思うが、個別避難計画との結びつきはよく分からないと思った。保護者が、あれもこれもと資料があると、いざ災害が起こった時、持ち出せないことも想定し、コンパクトサイズがあったら良いのではないか。

[事務局]

- ・確かに今回のガイドブックは、個別避難計画の作成と直接結びつきはない。今後、危機管理の部署やコ

ーディネーターと連携し、モデル的に避難訓練を実施していく中で、個別避難計画を作成する方法のモデル事例を数件作っていき、ガイドブックに反映させていくこと等を検討したい。

[委員]

- ・ガイドブックに福祉避難所の記述があるが、災害時に受け入れを断った事例もあると聞いており、本当に直接避難できるのか等不明である。ガイドブックに記載する以上、保護者が困る（迷う）ことのないよう対応してほしい。

[委員]

- ・ガイドブックの内容について、保護者とワークショップを開くなどし、例えば、どんな医療物品や薬を何日分備えておくのが現実的なのかなどの意見交換を行い、より実践的なものにしていくのが良いのではないか。

[事務局]

- ・村尾委員にもご協力いただき、今後ぜひ実施していきたい。

(3) アンケート調査（災害対策編）の内容及び調査方法について

ア 説明

- ・田中が、アンケート調査について、想定を超えた豪雨や台風が頻発する中、保護者の方が感じておられる不安、避難する際の課題、災害への備えの状況等について把握するとともに、災害時支援の在り方（自助・共助・公助の適切な組み合わせ方）の検討などに生かすために行うことについて説明。また、調査の方法について、市の入力フォームで回答してもらいつつ、紙の方が良いという保護者の方には、紙ベースの調査票を郵送でやりとりするような形で実施したい点について説明。

イ 質疑・意見交換

[事務局]

- ・3-（1）①～④の質問項目について、直接的には共助、公助につながる質問ではないため、落とすべきかご意見を伺いたい。

[委員]

- ・ガイドブックの内容とリンクするので、質問項目としてあったほうが良い。

[委員]

- ・3-（2）④について、警戒レベル3高齢者等避難が発令する前に避難を検討する方もおられると思うため、注意報レベルの選択肢を入れてはどうか。
- ・3-（3）①の表が分かりづらいので、選択肢をア～クにまとめて、コンパクトにすべきである。
- ・3-（4）④について、避難訓練を行うことは大変重要であり、（何度も繰り返し）避難訓練して当たり前という認識のもと、いいえを回答する方に対して、「どのような条件が揃えば避難訓練に参加するか」という質問を入れてはどうか。

[事務局]

- ・ご指摘いただいたご意見について、全て修正させていただく。

6 まとめ

- (1) アンケート調査等の実施により、医療的ケア児者の日中の居場所を確認し、そこで災害に備えた対応（BCP作成等）がされているかを確認するとともに、携帯しやすいようコンパクトサイズへの改良の検討や個別避難計画の作成と結びつくような内容等にガイドブックを更新していく。
- (2) 今後、医療的ケア児等の保護者とワークショップを開催し、医療物品や薬等をどの程度災害時に備えておくことが現実的なのか等話し合い、その内容をガイドブックに反映していく。